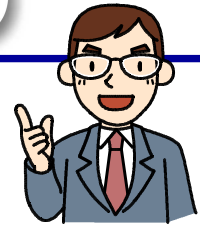


# あむーる

島根県立松江北高等学校  
第3学年 八幡英語通信  
2017年2月21日発行  
第30号

## 自分で調べることの大切さ!

No.30



今年度最後の「あむーる」になります。みなさんから「先輩方の実績や体験談を聞けて良かった」という感想をもらい嬉しく思いました。北高の卒業生は全国の大学にまたがって活躍しています。ぜひ先輩たちの後に続いてください。そして大学の感想・勉強の様子などを後輩たちに聞かせてやってください。八幡宛にメールで (eメールアドレス: yawata@hp.tpl.jp) 送ってもらえると嬉しく思います。

今年度最後にあたり、八幡が大学に入った時のことをお話しておきましょう。英語が大好きで、それなりに成績も良かったのですが、大学の授業はカルチャーショックでした。それまで当たり前だと思っていたことやルールを、「それはなぜですか?」と繰り返し聞かれる。「分かりません」と答えると、次の時間までに調べておきなさい、と宿題。授業で読む英文もそれまでの英語とは雲泥の差。90分の授業で1行か2行しか進まないことも。全ての単語の意味するところを (特に言外の意味) *Oxford English Dictionary* (OED) で全部調べていかないと、質問に答えられません。英語資料室にみんなで閉じこもって、手分けをしてOEDを引きまくったのも懐かしい思い出です。我々学生はそうやって分担することができるけれど、先生は御自分で全部の単語を引いてノートに転記しておられる。手抜きはできません。OEDは世界の英語辞典の最高峰と呼ばれるもので、1冊が何キロも重さがあります。それがA~Zまで23冊もあるのですから、先生が年度末に腰を痛められたのも当然かと思えます。私はバイト代を貯めてOEDを買いました。英文法も、1からやり直しです。英語の歴史に基づきながら、どうしてそうなったのかを細かく検証していきました。英語を話したり聞くことは、米軍の通訳をやっておられた先生から、LL教室で (当時はテープでした) 学習。英会話担当のアメリカ人ハンフリー先生には、よくできると近くの喫茶店でごちそうをもらいましたね。

いろいろな英語を読んで、自分の分からないことを、徹底的に調べる習慣を先生方に厳しく教えていただきました。安藤先生からは100の理論よりも、1つの事例を持つことの大切さを教えていただき、英語を読みながら「?」と思ったものは片っ端から用例カードに記録していきました。最初は手書きで、後にタイプで一つ一つ記録しては、ボックスに保存していました。当時なかなか適当な大きさのカードがなかったので、印刷所に特注して自分専用のカードを作ってもらいました。いまでもそれを使っています。10万枚以上 (!) のカードが集まっています。

英語を細かく読んでいると、高校時代に習ったことと、実際の英語がずいぶん違っていることに気づき始めました。いったん疑問に思い始めると、次から次から類例が集まってくるから不思議です。それをコツコツと溜めて、自分なりの考えをまとめていきました。参考書や辞典にどう書いてあろうと、用例はこう語っている、という態度です。例えば、**after all** は高校では「結局」と習ったのですが、新聞や小説を読んでいると実態は異なります。

You mustn't be too angry with her. *After all*, she is only a child. (彼女にあまり腹を立ててはいけません。)

だって、まだ子どもなんですから)

このように文頭に来た **after all** は、明らかに理由を述べる「だって (あなたもご存じの通り) …だから」という意味ばかりです。文尾に来た場合が「結局」という意味になることが判明しました。このようにして、**be willing to** (喜んで~する)、**be familiar with** ~ (～をよく知っている)、**in fact** (実は) が、高校時代に習ったものとは実態が異なることに気がきました。これらを、ぼそぼそと雑誌などに発表していると、日本最高の辞典の編集責任者の目にとまり、すごい人たちとお仕事をご一緒させていただく機会を与えられました。本当に勉強の日々でした。

ここで最近の例を、お目にかけてみましょう。**the other day** (先日) という成句は、私は a few days ago (数日前) という理解をしていました。ところが最近、英語関係の書籍にこの **the other day** が「昨日」を表すという記述が目立つようになりました。

(1) 日本語の「先日」より現在に近いこともあり、場合によっては1日前のこともある。—『ジーニアス英和辞典』(第5版、大修館、2014年)、『プラクティカルジーニアス英和辞典』(大修館、2004年)

(2) 日本語で「先日」というと、比較的前のことを指すこともありますが、the other day はもっと「現在」に近い時を表し、「1日前」のことを言う場合もあります。—竹岡広信『必携英語表現集』(数研出版、2015年) p.74

おいおい、いくらなんでもそれはないだろう、と思い自分なりに確認をとりました。ジョージア大学の**アルジオ博士(John Algeo)**に現地調査をお願いしたところ、やはりアルジオ博士もこの記述は誤りで、“a few days ago”, “several days ago”, “a couple of weeks ago” という解釈がほとんどのアメリカ人にとって普通とのことでした。学生たちの反応も調査していただきましたが、大部分が過去の数日前を、かなりの学生が数週間前を、数人は数か月前を表すと答えた。また、2人は昨日を、2人は昨日を表すことはない、と反応したとのこと。要するに、近い過去を表すあいまいな表現で、話し手の状況に応じて幅のある英語、ということになります。どう考えても、「昨日」という解釈は普通ではありません。イギリス英語の立場から、ロンドン大学の**イルソン博士(Robert Ilson)**は、上のアルジオ博士の反応を支持されましたが、個人的には数週間前までさかのぼることは普通ではないとのことでした。この点には**Sylvia Chalker**博士も同意されました。the other night/ ?morning/ ??week/ \*month/ \*year の段階の容認度を考えてみると、比較的最近の過去を表す表現であることが明らかとなります。

本校前ALTの**Chelsie Brunner** (ケンタッキー州出身) さんは「the other dayを昨日の意味に使うことはない。yesterdayはyesterdayであって」と語りました。現ALTの**Edward Delmonico** (アリゾナ州出身) さんも「a few days agoの意味であって昨日に使うことは絶対ない」との意見でした。「平成28年度JETプログラム意見交流会」(島根県庁、2017年1月27日)に参加していたALT5名(アメリカ人3人、ニュージーランド人1人、イギリス人1人、年齢は皆20代後半)の反応も調べてもらいましたが、やはり「数日前」を表すのであって、「昨日」を指すことはない、ということで一致しました。さらには、ミシシッピ大学・大学院に留学中の**佐藤敦子**先生のお手を煩わせて、調査をしていただきました。協力してもらったのは地元高校生13名、大学生13名(地元出身10名、中西部出身3名)、教授2名(中西部出身)。全員口を揃えて「a few days ago, a few weeks agoの意味だ」とのこと。誰も「昨日」の意味では使わないとのことでした。教授たちは「昨日の意味で用いることは聞いたことがない。多くても数週間前」との報告をいただきました。やはり、どう考えても「昨日」を表すことは普通ではありません。学習辞典には載せるべきではないと考えます。

このように、自分で「あれ?」と思ったことは、納得いくまで調べる姿勢を貫きたいですね。👉👉👉



それでは元気で活躍してください!



BYE BYE

